

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ナーシングセンターらいむの丘				公表日	R8年1月28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・長期休暇の間は同じ空間を使うことになるが、机などの配置を見直したので広がった。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2		・生活介護終了後、放課後デイを実施しており、生活介護の職員で事業を実施しているため放課後デイとしての職員が必要。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・事業終了後には毎日みんなで掃除消毒をしており、心地よく過ごせる空間となっている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	3	・個別の部屋はないが、他施設へ散歩に出るなどはできる。 ・居室内はワンフロアとなっている。不穏な状態等になった際はすぐに外に出れる環境となっている。	・個別に対応できる部屋があれば何かあった時、しっかりと対応できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・改善点があれば職種関係なく意見を聞ける環境ができている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			・面談の日を設けているが、日々の細かい意見などをもっと吸い上げられるといふと思う。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・月1回の職員会議等。 ・毎日朝礼と夕礼をしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		・外部の方が入ることで違う意見などを取り入れることができる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・現場ミーティング（施設内研修）、社内研修学部研修等への参加。		
支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		・計画相談からの計画書、保護者からの聞き取りをもとに計画書を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・児童発達支援管理責任者だけでなく、各担当者が計画書を作成。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・現場ミーティングにて支援検討会議を実施し、職員間で共有している。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	4		・入浴の目的が大きいため、入浴以外の時間が短く十分に観察できていないと感じる。 ・細かく行動を把握できていないためしっかりとアセスメントする必要がある。	

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	・決められた書式にて、計画書を作成している。	・ガイドラインにしつかり沿った支援内容を設定する必要がある。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	3	・長期休みの際はレク、行事への参加もされている。その際はしっかり計画をし、反省も行っている。	・聞き取りよりニーズが入浴のため入浴を中心に行われており、活動時間の確保が難しい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	3	・長期休みの際はレク、行事への参加もされている。その際はしっかり計画をし、反省も行っている。	・入浴が主な目的であるため、活動時間の確保が難しい。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	2	・長期休みの際はレク、行事への参加もされている。その際はしっかり計画をし、反省も行っている。 ・個別支援計画書を作成し年1回評価している。	・入浴が主な目的であるため、活動時間の確保が難しい。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	・日により担当を決めて固定することなくすべての職員が関わるようにしている。 ・長期休みの際はレク、行事への参加もされている。その際はしっかり計画をし、反省も行っている。 ・朝礼で情報共有。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	・日により担当を決めて固定することなくすべての職員が関わるようにしている。 ・長期休みの際はレク、行事への参加もされている。その際はしっかり計画をし、反省も行っている。 ・夕礼または翌日の朝礼で情報共有。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	・翌日の朝礼等で報告、相談を行っている。 ・連絡帳にて日々の様子や状況を記録している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・年2回のモニタリング、年1回の計画書作成を実施している。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	1	・長期休みの際の活動で実施している。	・ガイドラインを見る機会がないためしつかり見直す必要がある。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		・何をするにも確認し、本人が自身で決定できるように問いかけている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	1	4		・サービス担当者会議が実施されていない。 ・会議が行われていないため、定期的に行う必要がある。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2		
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		・送迎時や何かある際は電話などで連絡を取り合い連携をはかっている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4		・書面では確認しているが、情報共有の場はない。 ・就学前の利用所とは連携はとっていない。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		・移行支援会議等で情報を共有。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパー・バイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2		・特に連携などはとっていないため情報共有の機会は重要。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	3	・施設が多世代共生施設となっている。	・入浴が主な目的であるため、活動時間の確保が難しい。 ・交流する機会がないため、交流することで良い刺激となる。

	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		4	・参加する機会がないためより良い支援をするには必要。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・連絡帳ノートの活用、送迎の際に様子を確認するなど普段から会話を心掛けている。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	・個人的に介護について質問などがあった際は、センターの設備などを紹介しながら情報提供を行った。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・面談の日を設けたり、相談員からの情報を踏まえて作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・必要に応じて自宅に行き、支援方法の助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4		・保護者会なし。 ・交流する機会がないため、相談などできる良い機会だと思う。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・苦情の窓口があり、周知もしている。今のところ苦情はない。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	1	・毎月の活動内容やその月の予定を便りで配布している。	・入浴、リハビリがメインになっており、レクなどができるおらずSNSに上げれていない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	・施設の行事の際、ボランティアさんの招待。	・入浴が主な目的であるため、行事活動の時間の確保は難しい。 ・地域の方とふれあう良い機会だと思う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	・マニュアル作成し、いつでも職員が見直せるよう印刷し共有している。必要に合わせて月1回勉強会開催。	・訓練は実施していないため、緊急時に備え行う必要はある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1	・長期休み利用時に生活介護事業と一緒に訓練を実施した。	・放課後デイの時間帯では、訓練を実施していないため、緊急時に備え行う必要はある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		・契約時や送迎時、連絡帳ノートを通じて、看護師を含め施設職員が状況確認し把握している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		・契約の際、医師の指示書あり。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1		・安全に支援するには必要なこと。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		・安全に利用してもらうには、家族にも取り組み内容を理解してもらう必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・ヒヤリハットの書式、ファイルを作成し現場ミーティング（会議）で検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・虐待防止研修の実施。 ・研修参加や研修に参加されたスタッフから情報伝達が行われている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		・身体拘束の同意書有→記入を依頼 ・身体拘束を実施した際は記録をとっている。	